

▽発信元・お問い合わせ先はこちら
「人材ビジネスの発展を通じてヒトの成長を追求する」
株式会社ヒューマンビジネス・コンサルティング
E mail:info@hb-consulting.jp

三菱自動車、水島製作所で500人を配置転換 一部は日産が引き受け

三菱自動車は7日、国内主力工場である水島製作所（岡山県倉敷市）の普通乗用車の製造ラインで生産調整を始めた。昼夜の2直勤務から、昼のみの1直に切り替えた。余剰となる従業員は約500人に上るが、うち一部は日産自動車系の工場に引き受けてもらう。

約500人のうち半数は、稼働が堅調な名古屋製作所（愛知県岡崎市）に配置転換する。残りは軽自動車の開発で提携する日産の生産子会社、日産自動車九州（福岡県苅田町）など他社工場に派遣する方針だ。

同工場では、普通乗用車は、海外向けのセダン「ランサー」やSUV（スポーツ用多目的車）「アウトランダー」などを生産している。生産能力は、乗用車と軽自動車、商用車の4本のライン合計で約60万台だが、同社は昨年11月、普通乗用車の生産ラインを休止した。

円高による輸出採算の悪化を改善する狙いだったが、欧州の自動車需要低迷の長期化を受けて、同工場で減産に踏み切る。

同工場では、今年3月には軽ラインも昼のみの1直に切り替えたため、平成23年度（2011年度）の生産実績は約33万台にとどまった。減産に加えて、今年5月から新型アウトランダーの生産を名古屋製作所（愛知県岡崎市）で始めることもあり、24年度（12年度）の生産規模は前年度比2割減の27万台前後になる見通しだ。

減産について同社は「国内外の需要に応じた生産体制の効率化」としているが、欧州市場の先行きは不透明で、生産正常化には時間がかかる可能性もある。

平成24年5月7日 MSN産経ニュース